

平成29年度 会派調査研究報告書

(視察先1箇所につき1枚)

会 派 名	公明党	
事 業 名	先進地視察 「京都府南丹教育局と南丹市教育委員会における幼小中高大連携について」	
事 業 区 分	①研究研修	②調 査

1 上田市での課題と研修・調査の目的

上田市の教育委員会と政策企画部が連携し進めている「幼保小中高大連携」を実施している数少ない自治体である京都府南丹市を調査し、上田市が進めようとしている連携のあり方について調査研究する。

2 実施概要

実施日時	視察先	京都府 南丹市 京都府 南丹教育局
平成29年8月21日 14:00~15:30	担当部局	南丹市 教育委員会 京都府 南丹教育局

報
告
内
容

1 市の概要

- 人口：33,145人
- 面積：616.40k㎡
- 財政力指数：0.34
- 産業別構成比：第一次産業9.60%、第二次産業23.41%、第三次産業60.48%

2 市の特徴

「学生」と「ものづくり」のまち

… 京都美術工芸大学の開学とともに、工芸家、京都府の新産業拠点などがあり「ものづくり」のまちとしての地域資源を持っている。

3 視察事項について

- (1) 京都府南丹教育局が進める「幼小中高大連携」
発端は、南丹市と京都市の距離にあり、多くの高校生が地元高校ではなく、京都市内へ通学してしまうことから、地元の京都美術工芸大学、そして、中学校と高校の連携から地元高校の魅力づくりとして「幼小中高大連携」を推進した。



(南丹市の説明)

(2) 注目点

京都府の南丹教育局は2市1町を担当している。その校長先生で構成された「南丹地区
幼小中高等学校連絡会議」が主となり、地元高校との連携事業を行ってきた。

高校主催の中学校英語スピーチコンテスト、外国語活動パートナーズクール事業、農
業高校、園芸高校での実習など、駅伝、工芸教育展などを開催している。

4 まとめ、上田市への提案

上田市では、「幼保小中高大連携」が目指す方
向性が示されていない。小1、中1ギャップや相
互交流など実施され成果を上げてきている内容
もあるが、例えば「上田学」など上田市を学ぶ授
業の導入なども一つである。



報
告
内
容
・
感
想
(
ま
と
め
)
・
市
政
に
活
か
せ
る
こ
と

* 視察先の写真等がある場合は添付のこと

平成29年度 会派調査研究報告書

(視察先1箇所につき1枚)

会 派 名	公明党	
事 業 名	先進地視察 「防災対策について」	
事 業 区 分	①研究研修	②調 査

1 上田市での課題と研修・調査の目的

台風や暴風雨、集中豪雨などの被災経験を活かし、強いまちづくりを進めている先進的な取り組みとして福知山市の具体的な取り組みを調査研究する。

2 実施概要

実施日時	視察先	京都府 福知山市
平成29年8月22日 13:30~15:00	担当部局	総務部 危機管理室

報
告
内
容

1 市の概要

○人口：79,509人

○世帯数：35,895世帯

由良川流域の福知山盆地に位置し、平成18年1月1日に、福知山市・三和町・夜久野町・大江町の1市3町が合併し、新「福知山市」が誕生した。

2 市の特徴

由良川は、綾部より上流は急勾配の河川ですが、綾部から福知山では勾配が緩くなり、福知山盆地を過ぎると再び山間部に入り狭谷となるうえ、勾配が極端に緩くなる。また、由良川は最大の支川として流入する土師川（はぜ）との合流地点で大きく流れの方向が変わる川形となっていることから、一度洪水ともなれば水位が上昇しやすい。（由良川：堤防整備率が約30%）

平成25年には台風18号災害（外水氾濫）、26年8月には豪雨災害（内水氾濫）が発生している。

3 視察事項について

《被災経験が活かされた防災対策について》

(1) 災害対策本部の体制強化

特別対策チームの設置により、災害対策本部直轄で部署を超えた職員で構成しており、課題に対応するためのチームや窓口など関係機関との調整等を担っている。



(福知山市の説明)

(2) 地域の災害履歴やリスクを把握し、いざというとき住民自らの判断で防災活動・避難行動が判断できる仕組みを構築した。

- ・ライブカメラ市内町中9台、京都府河川防災カメラ5か所設置した。
- ・国土交通省の由良川ライブカメラも含めパソコン、スマートフォン、携帯電話で確認できる。

(3) 災害時の情報伝達機能の強化

- ア 緊急告知ラジオ・防災行政ラジオ（無償配布）、屋外スピーカー、緊急携帯電話等へメール配信、一般のラジオ等の手段により情報発信する。
- イ 災害時の防災行政無線の放送内容を確認できるテレフォンガイドシステムを導入する。
- ウ 屋内で聞けるラジオを無償配布する。
- エ 防災意識の高揚と住民自らの避難行動につなげる。→地域の防災マップ作成を支援
全自治会：336自治会、自主防災組織222組織、防災マップ作成自治会46組織

(4) 避難情報発令基準の見直し

内閣府策定の「避難勧告等に関するガイドラインの改定」及び河川改修等治水対策の進捗に伴い改定を行ったもので、土砂災害、洪水、内水氾濫別に水位や雨量、天気予測などをもとに基準を設定した。ただし、天気予報等とリンクしていなくても必要との判断で避難準備情報発令も可能である。



- ・夜間における非難を回避するため、適切な時間帯に避難準備情報を発令する。
- ・避難場所を避難準備情報発令段階から開設し始め、避難勧告発令までの開設完了を推奨している。
- ・避難勧告の発令基準を満たしたら、避難場所の開設を終えていなくても避難勧告を発令する。
- ・災害が切迫した状況では、緊急的な待避場所や屋内の安全確保措置も避難行動として周知する。（近隣のより安全な場所、屋内のより安全な場所への移動）

※ 行政が動けなくても避難所のカギは地域と共有しているため、地域住民が対応可能である。

(5) 関係機関との連携各防災関係機関とのホットラインを構築する。（国土交通省、京都地方気象台、自衛隊等）

国土交通省の呼びかけにより、由良川福知山タイムラインを策定する。（連携強化のツール）

- ・各種情報の意味を理解し防災行動のきっかけとする。



- ・ 情報提供体制の再構築
- ・ 他機関の役割と活動を把握
- ・ 関係機関の窓口の明確化

(6) 自助・共助の強化の主な内容（市民とともにつくるより災害に強いまちづくり）

ア 急激な降雨による災害進行の把握し、市及び市民の情報収集体制を強化する。

- ・ 防災情報ライブカメラ ・ コンビニとの情報提供協定

イ 浸水想定地域外の浸水被害の発生などを踏まえ、地域ごとの災害リスクを把握する。

- ・ 土砂災害、内水氾濫ハザードマップ策定 ・ 自主防災組織地域防災マップ作成事業
- ・ 土のうステーション設置

ウ 市民への情報伝達を強化する。

- ・ 防災行政無線テレフォンガイド事業 ・ 防災情報緊急告知ラジオ導入事業



4 まとめ、市政に活かせること

行政からの情報伝達については市内で統一した手段がなく、地域差が課題である。

自主防災組織リーダー研修会は毎年行われているが、リーダーには自治会長が就いていることが多く、研究内容が自治会に共有されていない。自主防災組織の継続的な活動につながる組織体制の見直しと段階的な研修内容の充実と受講者の増加が必要である。

さらに、防災訓練については行政の訓練、自主防災組織を中心とした訓練、要配慮者施設での避難訓練等、実践的な訓練を行う必要があると感じた。

また、地域の防災マップ作成に関する支援が必要であり、消防団や自主防災アドバイザー、防災士等の役割を示すとともに連携することが求められている。

感想（まとめ）・市政に活かせること

* 視察先の写真等がある場合は添付のこと

平成29年度 会派調査研究報告書

(視察先1箇所につき1枚)

会 派 名	公明党	
事 業 名	先進地視察 「地域おこし企業人交流プログラムについて」	
事 業 区 分	①研究研修	②調 査

1 上田市での課題と研修・調査の目的

少子高齢を進めてしまう人口減少社会に対応していくことは喫緊の課題である。上田市に魅力があり、住みたい、住み続けたいまちづくりのため、「地域おこし企業人交流プログラム」による大都市圏企業からの社員派遣を受け入れ、培われた能力をまちづくりに活かしている豊岡市の先進的な取り組みを調査研究する。

2 実施概要

実施日時	視察先	兵庫県 豊岡市
平成29年8月23日 9:30~11:00	担当部局	環境経済部 エコバレー推進課
報 告 内 容	1 市の概要 ○人口：81,596人（平成28年） ○世帯数：30,084世帯（平成28年） ○面積：697.55k㎡（県内最大、県全体の8.3%）	
	2 市の特徴 兵庫県の北東部に位置する1市5町が平成17年合併してできたまちである。 北は日本海、東は京都府に接し、山陰海岸国立公園、氷ノ山後山那岐山国定公園に恵まれ四季を織りなす自然環境に恵まれている。平成17年に国の特別天然記念物 コウノトリが放鳥され、人里で野生復帰を目指す壮大な取り組みが着実に進んでいる。平成25年に上田市へもコウノトリが一羽飛来しえいる。昭和54年に旧出石町と上田市は姉妹都市提携を結んでいる。平成18年災害防災協定も豊岡市と提携している。産業は、農林水産業、観光業などが盛んである。	
	3 視察事項について (1) 総務省の地域おこし企業人交流プログラムを導入した取り組みの背景は何か。 地域おこし企業人交流プログラムは、三大都市圏に勤務する民間企業の社員が、そのノウハウや知見を活かし、一定期間（半月から3年）地方公共団体において、地域独自の魅力や価値の向上等につながる業務に従事することで、地方圏への人の流れを創出することを目指すプログラムである。	

豊岡市の人口減少の要因として、・若者の転出が多い ・若者の未婚率の上昇による出生数の減少 ・地方は貧しくつまらない ・地方は閉鎖的 これらを払拭するため、豊岡市には、大都市とは別の価値観に基づく、豊かさ・楽しさがある。やりがいのある仕事もある。

人口規模は小さくても、世界の人々から尊敬され、尊重されるまち。

ローカル・グローバル・シティーを目指す。
そのための取り組みの一つが地域おこし企業人交流プログラム。



(福知山市の説明)

(2) 導入の成果と効果はどうか。

- ・2013年に楽天から、2014年にJTB西日本からそれぞれ職員を派遣していただき、企業のノウハウや語学を活かした業務や観光行政としてマーケティング手法を取り入れた業務、web戦略の経験を活かし、外国からの観光客誘致へつなげている。

具体的には、英語版観光向けホームページ開設や、SNSによる情報発信により、外国人観光客の誘致につなげている。

- ・城崎温泉の外国人宿泊推移

2012年 4,732人

2013年 9,584人

2014年 13,877人

2015年 31,442人

観光客の33.4%がインバウンド

上記のようにインバウンド対策として効果が出ている。

(3) 豊岡市環境経済政策として

環境をよくする取り組みと経済活動が刺激しあいながら、高まっていく「環境と経済が共鳴する」ような地域を作り上げていく。そのためには、環境に関する専門的知識を持った人材が少ないので、地域おこし企業人交流プログラムを活用し、日本リファイン(株)から若手の社員を派遣。この企業は環境保全を業として社会に貢献する企業であるので、担当業務として環境経済事業の推進に関する事。これは環境をよくするビジネスで利益が生まれることにより、環境と経済がともに進展する事業を推進。

低炭素社会に向けた取り組みの推進に関する事。これは「地球温暖化対策実行計画」の策定事務を行う。

豊岡市の環境経済政策の取り組みを担当している。

4 注目点

地域おこし企業人交流プログラムを導入する背景の一つに、行政側の弱い点として、世の

の変化に敏感に反応する感度が不足していたり、スピード感が弱かったり、戦略性が欠けていたりすること等があげられる。そこで民間のスペシャリストを活用することで、民間企業において培った専門知識・業務経験・人脈・ノウハウを使い外部の観点での取り組みを展開し、また企業においては、新しい社会貢献として多彩な経験を積むことで人材育成・キャリアアップにつながる。

2009年に豊岡市は副市長を公募し、1,371倍の倍率で真野毅氏が就任した。京セラ(株)アメリカ子会社社長等歴任、副市長は2人制である。「知られなければ存在しないのと同じ」という考えで秘書広報課に情報戦略係を設置した。副市長が民間から就任されたことを契機に人々とつながり、人々と共感を育み人々と創り上げていく能力が、全国、世界へつながりを広めていける。

5 まとめ、市政に活かす

職員として企業人を受け入れることにより、若手職員中心に周辺職員に好影響を及ぼす。

事務処理のスピード感が出てきたり、プレゼン能力が培われたり、コスト意識が高まることなどからチーム意識が強まる。それにより、リスクを恐れずに新しいことにチャレンジする傾向に意識が変わっていく。

潤いのある生活を送ることができる地域社会を形成するため、人口、経済、地域社会の課題に対して、一体的に取り組んでいくことが今後重要になる。上田市にとって地域活性化の取り組みを効果的・効率的に展開できる。企業にとっても、社会的責任を新しい形で果たすことができる。



* 視察先の写真等がある場合は添付のこと

平成29年度 会派調査研究報告書

(視察先1箇所につき1枚)

会 派 名	公明党
事 業 名	先進地視察 「議会改革について」
事 業 区 分	①研究研修 ②調 査

1 上田市での課題と研修・調査の目的

上田市議会では中学校での出前授業を計画している。実際に行っている大阪府泉大津市議会での中学校での取り組みとともに議会改革の取り組みについて調査研究し、上田市議会の取り組みの参考にする。

2 実施概要

実施日時	視察先	大阪府 泉大津市
平成29年8月23日 16:00～17:00	担当部局	議会事務局
報 告 内 容	<p>1 市の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人口：75,897人 ○面積：14.31k㎡ ○財政力指数：0.71 ○産業別構成比：第一次産業9.60%、第二次産業23.41%、第三次産業60.48% <p>2 市の特徴</p> <p>全国シェア90%を占める毛布、ニット・毛織物と国際拠点港湾 堺泉北港を有し、関西国際空港等へのアクセスに便利なまちである。</p> <p>3 視察事項について</p> <p>(1) 視察項目と内容</p> <p>《議会改革について》</p> <p>ア 泉大津市議会基本条例第15条「次世代への取り組み」について</p> <p>議会は、政治参加への環境を整えるため、小中学校への出前講座を開催するとともに…と条例に定めている。この取り組みにおいて、昨年度は2回の出前講座を実施し、中学校2校で開催している。ただし、中学校の職業講話の時間の1つとして行っている。</p> <p>イ 議会改革検討協議会について</p> <p>各会派より1名ずつ選出し、平成21年1月より開催している。</p> <p>プロジェクターを使用した会議で、進捗状況をパソコンで記録、リアルタイムで出席者が確認する。</p>	

ウ 議会傍聴呼びかけ隊について

議員自ら市内各所にて本会議への傍聴を呼びかけている。3班に分かれスーパー、駅などでのぼり旗、チラシ配布、マイクで宣伝活動を行っている。

オ 政策討論会



(2) 着目点

- ・上記アの中学校への出前授業は、クイズ形式で議会の仕事を紹介している。
- ・上記ウの議会傍聴呼びかけ隊では、ほぼ全議員が参加することに驚いた。

4 まとめ、市議会で活かす

今年の秋には、総務文教委員会で中学校3年生の公民の出前授業を行い、広報広聴委員会では市内高校生との懇談会を予定している。今後の企画・運営に先進地の事例を参考に実施していきたい。



感想(まとめ)・市政に活かせること

* 視察先の写真等がある場合は添付のこと